

水門の概要



浜川は静岡市南部に位置し、その源を賤機山(標高140m)に発し、静岡市市街地の雨水を雨水幹線により南流させた後、国道150号静岡バイパス付近でほぼ直角に東へ向きを変え、道成寺川と合流し駿河湾に注ぐ流域面積11.87km²、河川延長1.87kmの二級河川です。

浜川水門は、当時、発生が予測された東海地震による津波災害を防御するため、昭和54年度に静岡県が着工し、平成元年3月に完成しました。

その後、平成17年度の浜川の管理権限移譲に伴い、水門の管理も静岡市に引き継がれました。

現在、静岡県第4次地震被害想定(平成25年6月)に基づき、地震及び津波被害を最小化するために、新たに耐震補強工事を実施するとともに、適切な維持管理を日々実施しています。



上流から水門を望む



水門から下流を望む



浜川河口



水門 及び 特殊堤

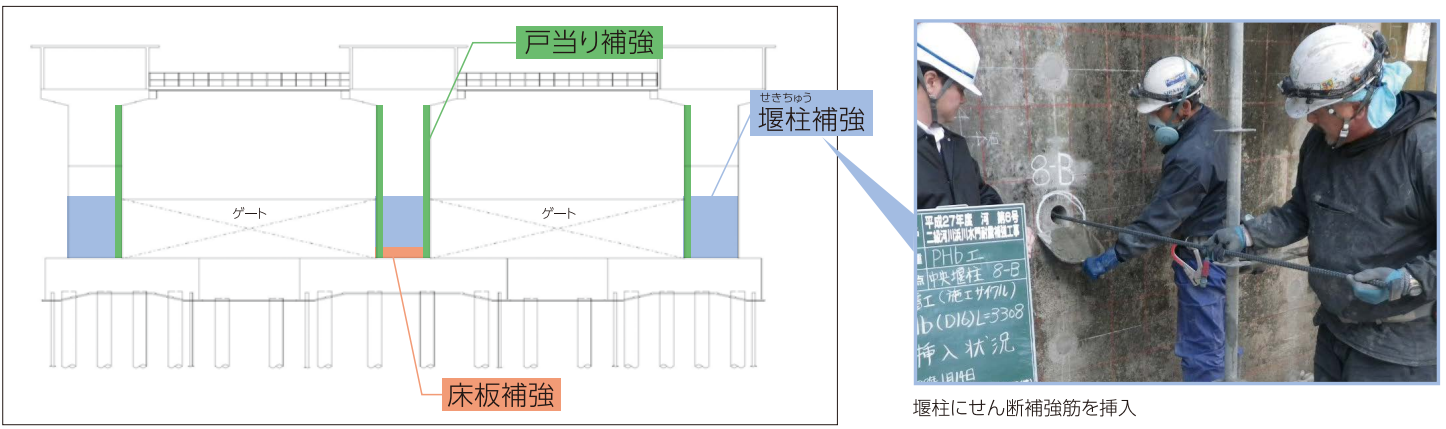
水門に関する時系列

浜川水門の経緯		地震・津波対策に関する法律・基準づくりの流れ	
S54	着工	S53.6	大規模地震対策特別措置法制定 (静岡県全域が地震防災対策強化地域に指定される)
H1.3	浜川水門完成		
H21.8	浜川水門緊急落下 (駿河湾沖を震源とする地震の為)	H21.8	駿河湾沖を震源とするM6.5の地震発生 (静岡市 震度5強)
		H23.3	東日本大震災発生
		H23.9	中央防災会議専門調査委員会 「東北地方太平洋沖地震を教訓とした 地震・津波に関する専門調査会」報告
		H24.2	河川構造物の耐震性能照査指針・解説の改訂
		H25.6	静岡県第4次地震被害想定公表
H25.3	浜川水門長寿命化計画策定		
H26~H27	浜川水門耐震工事実施		
H28~	浜川特殊堤耐震工事実施予定		

長寿命化計画：施設の機能を計画的、予防的に確保することで長寿命化し、ライフサイクルコストの縮減を目的とした計画

耐震補強工事

平成26年から27年の2箇年で、想定しうる最大規模の地震(レベル2)が起きても、水門としての機能を保持するよう、補強工事を行いました。



堰柱にせん断補強筋を挿入

維持管理

地震時に水門が正常に作動するよう、適切な維持管理を実施しています。



水門閉鎖訓練

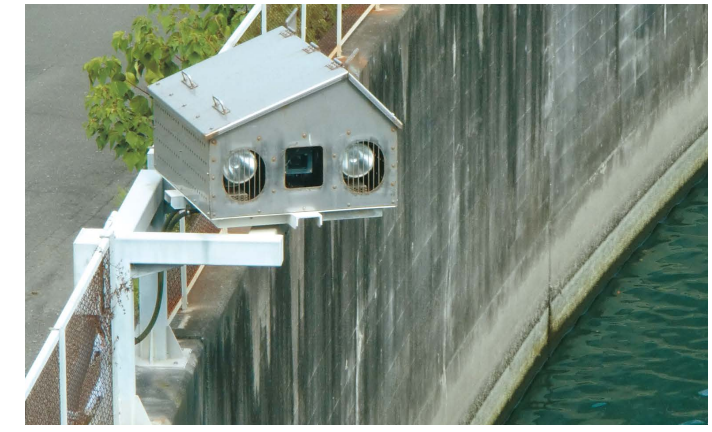


電機設備点検

水門の操作

予知情報・津波警報 及び 大津波警報が発令された時

静岡市役所内に設置された遠方監視制御装置からの操作により、水門を降下閉鎖し、津波の発生に備えます。
※津波注意報発令時は、水面の高さまで降下させます。



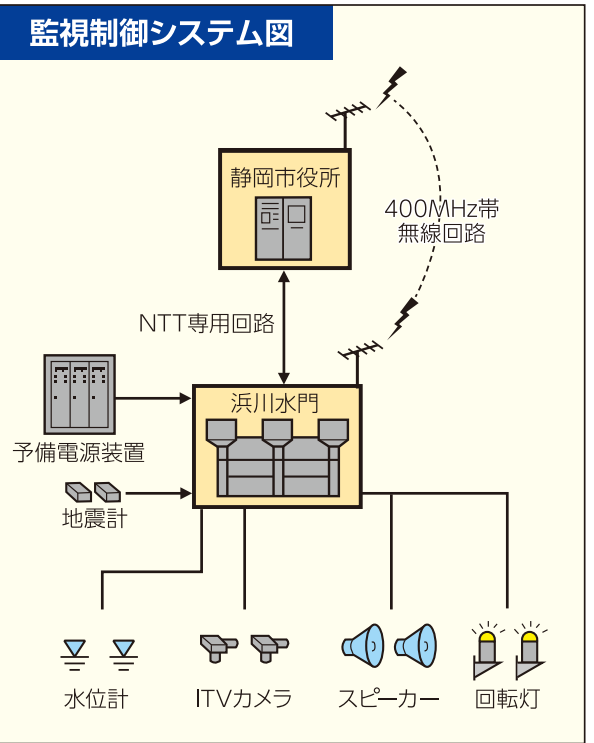
I.T.V.カメラ

地震が発生した時

水門内に設置された地震計が250ガル(概ね震度5強)以上の揺れを感知すると、水門は自動的に降下し閉鎖します。

遠方監視制御システム

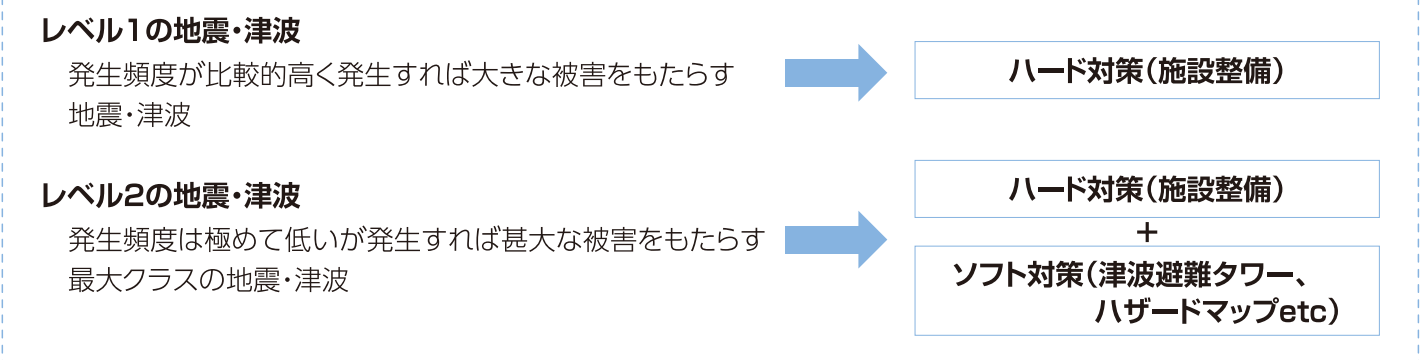
水門と静岡市役所をNTT専用回線及び無線回線(非常用)の2系統の回線で結び、水門の上げ降し作業は市役所から遠隔操作で行います。
なお操作は、水門近くに設置したI.T.V.カメラで安全を確認しながら、また回転灯、スピーカーで注意を促しながら行います。



静岡市役所内のシステム装置

整備効果

- 津波対策 レベル1の津波を施設整備で防御します。
- 地震対策 レベル2の地震に対して施設の機能を保持します。



※ハード対策(施設整備)で全ての地震・津波に対応することはできません。ソフト対策の1つとして避難ルートの確認・非常持ち出し品の準備など、日頃からの備えを心掛けましょう。